

授業評価 2014 (前期) T1P: 工学部デザイン学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.68(2014-08-26) by Yas

2014 年度前期 工学部デザイン学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1P002001	図学演習	1 年前期月曜 3 限	今泉 博子	T1P 1
T1P004001	デザイン造形実習 I	1 年前期水曜 4,5 限	田内 隆利他	T1P 2
T1P005001	デザイン論 I	1 年前期火曜 3 限	植田 憲他	T1P 3
T1P011001	デザイン科学 II	2 年前期水曜 3 限	勝浦 哲夫他	T1P 4
T1P013001	形の工学	2 年前期水曜 1 限	久保 光徳	T1P 5
T1P017001	コミュニケーションデザイン I	2 年前期水曜 4,5 限	桐谷 佳恵他	T1P 6
T1P018001	デザイン科学演習 I	2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限	岩永 光一他	T1P 7
T1P033001	コミュニケーションデザイン III	3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限	桐谷 佳恵他	T1P 8
T1P034001	デザイン科学演習 III	3 年前期金曜 1 限後半 / 3 年前期金曜 2 限	岩永 光一他	T1P 9
T1P036001	色と形の心理学	3 年前期月曜 3 限	日比野 治雄他	T1P 10
T1P037001	環境人間工学	3 年前期水曜 2 限	勝浦 哲夫	T1P 11
T1P038001	プログラミング演習 II	3 年前期火曜 1 限後半 / 3 年前期火曜 2 限	玉垣 庸一	T1P 12
T1P039001	デザイン文化計画演習	3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限	植田 憲	T1P 13
T1P048001	材料計画演習	4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限	寺内 文雄	T1P 14

授業科目名	: 図学演習
担当教員	: 今泉 博子
年次・開講時限	: 1 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1P002001
授業アンケート	: 回答者数 41 人 / 受講者数 75 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 41 件)

「はい」が 17 人 (41.5%)、「ややそういえる」「どちらともいえない」がともに 10 人ずつ (24.4%) と、反省すべき結果でした。初めての主担当授業であったため、実際に取り組んでみて、自分でも至らない点を多く発見しました。今後具体的には、教科書内容をさらに噛み砕いたスライドおよびプリントを用意し、丁寧に説明していきたいと思います。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 40 件)

1 時間未満が 17 人 (42.5%) と、あまり予習・復習に時間をかけていないことがわかりました。今回の授業では、「できればこの問題を解いてくるように」といった曖昧な指示を出してしまったためだと反省しています。結果、次の授業についていけない人も見受けられたので、今後は課題をしっかりと設定し、全体の理解度を向上させたいと思います。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 2 件)

「問題を解いている途中で次の問題に進む / 問題を解く前に説明を十分にしない」という指摘がありました。70 名という大人数で、理解度にかなり差のある状態の中、上手く進められていないことを再認識し反省しています。今後は、初回は丁寧に説明しながらゆっくり進め、適切な課題を出し、次の回では解き方についてきちんと解説するといった、着実な進め方に気を配りたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

自身の至らない点を認識しながらの苦しい授業となりましたが、アンケート結果を見たことで、改めて現状を受け止め、具体的な改善案を考える機会となりました。率直な意見を伝えてくれたことをうれしく思います。必修授業ということで、なんとか全員があるレベルを超えるようにと必死でしたが、もっと学生の本質的な修得につながるよう、精進して参ります。

3. その他のコメントや連絡事項

「製図の授業なので、授業中は飲食物を机に置かないこと」と最初に注意しましたが、それほど授業でも言えることです。こういうささいな注意からもいろいろと学びとってもらえれば、と思います。

作成 (者): 今泉 博子

授業科目名	: デザイン造形実習 I
担当教員	: 田内 隆利, 清原 明生, 玉垣 庸一
年次・開講時限	: 1 年前期水曜 4,5 限
授業コード	: T1P004001
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 74 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答
2. 授業アンケート全体に対するコメント
3. その他のコメントや連絡事項

作成(者):(不明)

授業科目名	: デザイン論 I
担当教員	: 植田 憲, 寺内 文雄, 樋口 孝之
年次・開講時限	: 1 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1P005001
授業アンケート	: 回答者数 36 人 / 受講者数 77 人 (回収率 47%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 33 件)

「はい」が 18.2%、「ややそういえる」が 42.4%で、教員側が意図した内容は理解されているものと思われる。もちろん、次年度にあっても、さらに向上させるように、適宜レポート課題を課すなどの工夫をしたい。なお、「いいえ」と回答したのが 1 名 (3%) あり、この回答をした学生がどのような態度で授業に臨み、また、なぜ、「いいえ」を選んだのかが不明であり残念である。授業期間中に質問に来るなどして直接話をしたかったものである。次年度に本授業を担当する場合には、授業中にそういった意見聴取をする機会を設けるべきなのかもしれない。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 33 件)

「はい」が 33.3%、「ややそういえる」が 39.4%で、概ね満足していることがわかる。本授業で取り上げる内容のほとんどが一般的に関心を持たれることの少ない座学であり、かつ歴史を取り扱っていることから大きな成果であったといえる。次年度にあっては、さらに満足度を向上させるようにしたい。なお、「いいえ」と回答したのが 1 名 (3%) いたが、この回答をした学生がどのような態度で授業に臨み、また、なぜ、「いいえ」を選んだのかが不明であり残念である。授業期間中に質問に来るなどして直接話をしたかったものである。次年度に本授業を担当する場合には、授業中にそういった意見聴取をする機会を設けるべきなのかもしれない。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

教員側が意図した内容はおおむね伝えられているように感じた。それゆえ、当初の授業 y 目標はある程度達成され、かつ、学生の学生到達度もそれなりにたかいものと思われる。次年度にあっては、さらに満足度を向上させるようにしたい。

3. その他のコメントや連絡事項

授業評価アンケートには、批判的な態度の学生がいたように思われる回答があった。授業期間中に直接申し出てくれれば対応のしようもあったが、今となっては、残念ながら困難である。授業期間中に、学生からの意見聴取ができりょうなしかけづくりが必要かもしれない。また、歴史は比較的看過される傾向にある領域であるが、当該の領域の理解にとって極めて重要である。今後とも、そうした認識を堅持しつつ、歴史・文化を理解しつつ、次の時代の発展を担うことのできるようなデザイナーの輩出を心掛けたい。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: デザイン科学 II
担当教員	: 勝浦 哲夫, 日比野 治雄, 青山 郁子
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 3 限
授業コード	: T1P011001
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 78 人 (回収率 36%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 28 件)

4 割近くの回答者が「シラバスを見なかった」と答えていることには驚きました。授業の内容を深く理解するためには、予めシラバスを熟読して授業の目的等について知っておくことが必要です。この結果から、その点について、受講生の皆さんに十分周知することが重要であると感じました。

Q9. 例題、例え話やサンプル等がわかりやすかったですか？(回答 27 件)

わかりやすい授業を心掛けていましたが、平均値は 3.89 ですので、それほど評価されていなかったようで残念です。来年度は、新たな工夫を加えるとともに、新しいトピックも組み入れつつ、受講生の皆さんにとってよりわかりやすい内容にしたいと思います。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？(回答 26 件)

この問の平均値は 4.04 でしたし、Q 15 の理解度の平均値も 3.74 と低いこともあわせ、まだ改善の余地があるように思います。そのため、来年度は受講生の皆さんにさらに満足してもらえるように内容面も含めて考慮したいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業の主たる目的は、デザインに関わる諸問題を考察する際に必要となる人間についての知識を、人間工学および心理学の二面から習得することです。本授業の受講生の皆さんには、少なくともその点を十分に認識した上で、受講していただきたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

本授業でも、毎年前年度の授業の総括を行い、その結果を生かすようにしています。また、デザインの領域では「新規性」も重要な要素ですので、取り上げる内容も可能な限り毎年アップデートするようにしています。これまでの授業の経験から、デザインの学生の皆さんは実際のデザイン活動に大きな関心を有していることがわかっていますので、来年度もそのようなトピックをさらに数多く授業に取り入れようと思っています。

作成(者): 日比野治雄

授業科目名	: 形の工学
担当教員	: 久保 光徳
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 1 限
授業コード	: T1P013001
授業アンケート	: 回答者数 16 人 / 受講者数 41 人 (回収率 39%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 15 件)

毎年、これは高得点である。決して音響的にも視覚的にも最適な情報伝達の場ではないのだが、一般教室とは異なる雰囲気と関連設備が身の回りにあることからの好回答なのかもしれない。他教室において教室構成を考え直すことで予想以上の満足度向上が離れるかもしれない。しかしながら、この満足度が学習度に直結しているのかは疑問である。

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 15 件)

宿題の多さは必ずしも不評とはつながらないようである。適切な内容を適切な順序で学生に提示することで、宿題、レポートによる負荷はまだまだ掛けられるようである。さらに工夫したい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 15 件)

66.7%が「はい」、26.7%が「ややそういえる」との回答である。これは有難い回答であるが、Q15:「よく理解できましたか?」では、「ややそういえる」が60.0%と多く、とても考えさせられる結果である。それでも昨年よりは向上しているが、この結果を真摯に受けてさらなる改善・工夫を継続したいと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

回答率が39%なので、授業内容をある程度以上理解できた学生のみがこのアンケートに回答している嫌いも有るが、昨年度との比較においては「講義内容がややわかりやすい」との声が目立つ。全体的な満足度も昨年よりは向上しているように思われる。確かに昨年度よりは、より具体的なイメージを持たせるように配慮した授業構成としたが、本来伝えるべきことの50%にも到達していないことも事実である。次年度に向けてさらなる改善を図りたい。学生とのやり取りは昨年の方が熱かったようにも記憶している。どちらの方が教育効果があるのかについてはこれから検討し、改善につなげたい。

3. その他のコメントや連絡事項

回答率が低いことは問題であると考え。次年度からは積極的にアンケートに回答してくれるように強くお願いしたい。

作成(者): 久保光徳

授業科目名	: コミュニケーションデザイン I
担当教員	: 桐谷 佳恵, 塩谷 徹, 大垣 友紀恵
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 4,5 限
授業コード	: T1P017001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 56 人 (回収率 34%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 1 件)

「課題をやる時間、プレゼンする時間、投票する時間の合間合間に無駄な時間が多かったです。」という意見を頂いた。人数が多いので、移動が関係すると無駄な時間が生じた可能性がある。しかし、「課題をやる時間」に無駄な時間があるのは問題なので、非常勤講師には注意を促したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q15 の理解度, Q16 の満足度ともに高かったので, 高評価を得た授業といえよう。その一方, Q14 の質問を積極的にしなかった学生が約 30 %ほどいたので, この点を改善すべく, 非常勤講師にもはたらきかけたい。

3. その他のコメントや連絡事項

授業への要望などは, 授業評価を待たず, 随時教員にフィードバックされたい。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 I
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, UEDA EDILSON SHINDI, 下村 義弘, 日比野 治雄, 石橋 圭太, 崔 庭瑞
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1P018001
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 78 人 (回収率 32%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 22 件)

この問に対する回答の平均値は 4.50 です。内容的にほど良い進捗であると評価されたものと考えられます。したがって、来年度も量的には本年度と同程度で行おうと考えています。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 22 件)

8 割近くの回答者が「全回」と答えているのは演習授業として喜ばしいことです。ただ、演習授業での出席の重要性については、受講生の皆さん自身にさらに深く理解してもらえるように努めたいと思います。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 22 件)

この問の平均値は 4.41 でしたし、Q 15 の理解度の平均値も 4.14 とまずまずの水準でしたが、さらに改善するように努めたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本演習は、当デザイン学科の大きな特徴のひとつである科学的な視点からデザインを捉えるという実践的な方法論を身に付ける基礎となる授業です。四つの研究室が担当していますので、来年度はさらに優れた内容となるよう全研究室で協力して行きたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

演習では、受講生の皆さん自身の積極的で自主的な関与と活動が何よりも重要です。その点を十分に理解して、各研究室の演習内容に取り組んでいただきたいと思います。そうすることによって、上記の通り、当デザイン学科の大きな特徴のひとつである科学的な視点からデザインを捉えるという実践的な方法論を身に付けることが可能となります。

作成(者): 日比野治雄

授業科目名	: コミュニケーションデザイン III
担当教員	: 桐谷 佳恵, 伊藤 恵士, 三尾 康明, 鳥巢 智行
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限
授業コード	: T1P033001
授業アンケート	: 回答者数 18 人 / 受講者数 42 人 (回収率 43%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

「もっとアドバイスを濃く、しっかりしてほしい」とのこと、Q29 で「全ての生徒にアドバイスをしてくれること」とある一方での意見だが、なるべく多くの学生が満足する質疑ができるよう、非常勤講師には要請したい。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

「もっと作品を短いスパンでたくさん作れるように課題が出されると良いかと個人的には思います。」本授業は 3 つの課題を行っていて、多くはないが少なくもない課題数である。一つ一つのクオリティを高める努力を受講生にはしてもらいたい。また、そのための指導の徹底を、非常勤講師には求める。

「授業が延びることが多かったのは後に予定が入っている人は困る と思いました。」これについては、各授業の前に確認をし、調整や配慮をするよう、非常勤講師に伝える。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q15 や QQ16 の理解度、満足度が高く、評価が高い授業といえよう。また、Q29 でもよいコメントを頂いており、非常勤講師達の努力がおおむね認められていると判断できる。しかし、上述のような問題も指摘されいるので、真摯に対応したい。

3. その他のコメントや連絡事項

授業への要望等は、授業評価を待たずに、随時教員に連絡されたい。

作成(者): 桐谷佳恵

授業科目名	: デザイン科学演習 III
担当教員	: 岩永 光一, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 石橋 圭太, 崔 庭瑞
年次・開講時限	: 3 年前期金曜 1 限後半 / 3 年前期金曜 2 限
授業コード	: T1P034001
授業アンケート	: 回答者数 24 人 / 受講者数 68 人 (回収率 35%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 23 件)

授業に満足したか否かという回答に、「はい」と回答したのは回答者の半数を越えており、「ややそういえる」と回答した者を含めると、全体の 87% となっている。残る 1 割強の回答者の満足度を高めていくのが今後の課題である。

Q18. あなたはこの演習・実験・実習科目を受講することによって、対応する講義の理解が深まりましたか? (回答 17 件)

理解が深まったと回答した者は、9 割を越えており、目的は達成できていると考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

四つの研究室が担当し、講義では学べない実践的な演習を行う授業である。班の構成メンバーや実験器具、実験時間もおおむね適切と評価されている。

3. その他のコメントや連絡事項

担当した回についての感想を述べると、受講生は積極的に課題に取り組み、楽しんでいただいているように思います。提案された内容から、十分理解できているだけでなく、よく工夫されていることがわかりました。

作成(者): 寺内文雄

授業科目名	: 色と形の心理学
担当教員	: 日比野 治雄, 本間 元康
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1P036001
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 74 人 (回収率 38%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 27 件)

わかりやすい授業を心掛けていたので, 8 割以上の回答者が「はい」と答えてくれたことは素直に嬉しく思います。来年度も, 新たな工夫を加えるとともに, 新しいトピックも組み入れつつ, 受講生の皆さんにとって興味深い内容にしたいと考えています。

Q11. 授業内容の量を考慮すると, 進度は適切でしたか? (回答 27 件)

授業科目の性格上, かなり広い領域をカバーした内容でしたが, 8 割近くの回答者が進度を適切であると感じてくれていたことは心強い限りでした。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 27 件)

この問の平均値は 4.52 であり, 比較的高い値となっていたことはとても嬉しく思います。出席に関する間で 85 % 近くの回答者が「全回」と答えてくれたことともあわせ, 本授業が好意的に評価された結果であると解釈したいと思います。ただ, 重要なことはこのような結果に一喜一憂することなく, 来年度以降の授業内容の改善に資するように対策を立てることであると思います。また, これは昨年度も同様に記しましたが, 授業評価があるということが, 私たち教員の側に受講者にとって少しでもわかりやすい授業を行おうとする意志を維持する動機ともなるのも確かです。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

シラバスに記載の通り, 本授業は心理学的な視点から考えることのできる能力の基礎を身に付けることを主眼において計画したもので, デザインにおける心理学的な側面について科学的に考察できる素養を習得することを意図した内容となっています。25 % もの回答者が「シラバスは見なかった」と答えているので, その点を十分理解した上で, 受講していただきたいと思います。

3. その他のコメントや連絡事項

本授業では, 毎年前年度の授業の総括を行い, その結果を生かすようにしています。また, デザインの領域では「新規性」も重要な要素ですので, 取り上げる内容も可能な限り毎年アップデートするようにしています。これまでの授業の経験から, デザインの学生の皆さんは実際のデザイン活動に大きな関心を有していることがわかっていますので, 来年度もそのようなトピックをさらに数多く授業に取り入れようと思っています。

作成(者): 日比野治雄

授業科目名	: 環境人間工学
担当教員	: 勝浦 哲夫
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1P037001
授業アンケート	: 回答者数 20 人 / 受講者数 57 人 (回収率 35%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 17 件)

Q2 の回答のうち, 76.5 % は「5. はい」, 残り 23.5 % も「4. ややそういえる」と高い評価であった。これは, 2011 年度から始めた Moodle を利用したパワーポイントデータの配信が好評であったものと思われる。自由記述欄にも良かった点として「スライドデータの配布があったので, 手元で見ることができた点, またスライドの移動が早く板書ができなくても, 後で見ることができた点。」などと書かれていた。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 19 件)

Q14 の回答結果は, 「5. はい」は 36.8 % , 「4. ややそういえる」は 15.8 % , 「3. どちらともいえない」は 15.8 % と全体として質問をしたとの意識は高くないが, 実際には, 毎回, 授業中に質問紙を配り, その日の授業内容に関する質問, 意見などを全員に書いてもらっている。その質問に対して次回の授業でかなり詳しく答えるようにしている。この方式によって学生の理解度, 興味などが把握でき, 学生もより興味を持って授業を受けることができるようである。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体として授業内容等については一定の高い評価を得ているが, 「Q7. 教室の環境」「Q8. その原因」などで「手元が暗い」等の不満を持っているものが若干 (1 名) ではあるが存在した。今後, 教室の環境の一層の整備が必要と思われる。

3. その他のコメントや連絡事項

私は本年度で定年退職を迎えるので, 今後, この分野の授業の一層の充実を願っている。
長い間, ありがとうございます。

作成 (者): 勝浦哲夫

授業科目名	: プログラミング演習 II
担当教員	: 玉垣 庸一
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 1 限後半 / 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1P038001
授業アンケート	: 回答者数 5 人 / 受講者数 11 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 5 件)

5 : 3 人 4 : 1 人 1 : 1 人 となった。

概ね、進度は良好であったと判断できる。

プログラミングを若干経験した学生が多いことを念頭に置いた授業進度のため、1 (いいえ) と答えた人は、プログラミング未経験者であった可能性が高い。

Q9. 例題、例えば話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 5 件)

5 : 2 人 4 : 1 人 3 : 1 人 1 : 1 人 となった。

概ね、こちらで予め用意したプログラミング例が理解されたと思われる。しかし 1 と答えた 1 名には内容が難しかったと思われる。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 5 件)

3 : 2 人 2 : 2 人 1 : 1 人 となった。

プログラミングや 3 次元データ処理に不慣れな学生としては学習時間が少な過ぎる。それにもかかわらず上記のような結果が得られたということは、工学部学生としての素質ということか。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q 1 5 の授業内容の理解度に対しては、4 : 4 人 3 : 1 人 となった。

Q 1 6 の授業の満足度に対しては、5 : 1 人 4 : 2 人 3 : 2 人 となった。

そこそこの結果ではあるが、Q 9 や Q 1 1 で 1 と答えた学生が出たことは重く受け止めなければならない。

学生に多様性を求める気風であるが、多様な適性を有する学生が混ざったクラスの場合、授業の難易度をどこにチューニングすればよいか、教員は常に悩まされ試行錯誤の繰り返しとなる。

3. その他のコメントや連絡事項

配布教材 (animaker) は Windows ベースで開発したものであるが学生は Mac ユーザーであり、システムの違いに起因すると思われる動作不良が相次いだ。バグを見つけては再配布を繰り返す授業となってしまう申し訳なく思う。

作成 (者): 玉垣庸一

授業科目名	: デザイン文化計画演習
担当教員	: 植田 憲
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1P039001
授業アンケート	: 回答者数 10 人 / 受講者数 31 人 (回収率 32%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 10 件)

「はい」が 20%、「ややそういえる」が 70%で、教員側が意図した内容は、概ね理解されているものと思われる。しかしながら、残念ながら、期待していた数値には到底及んでおらず、次年度にあってはより授業の進め方を工夫したい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 10 件)

「はい」が 30%、「ややそういえる」が 70%であった。概ね満足しているものの、残念ながら、期待していた数値には到底及ばなかった。ただ、短い時間のなかで調査内容をまとめ結果を出すという課題の性格上つらい部分もあったかもしれない。また、十分な提案を練り上げることができず満足度が上がらなかったのかもしれない。次年度にあっては、より授業の進め方を工夫し、学生に達成感を与えつつ教育効果を高められるようにしたい。

Q18. あなたはこの演習・実験・実習科目を受講することによって、対応する講義の理解が深まりましたか? (回答 9 件)

「はい」が 77.8%、「ややそういえる」が 22.2%で他は 0%であった。「生活」の「現場」において「体感」「体験」「体得」が、デザインという領域の活動の意味を理解するにはきわめて重要であることの証左であろう。今後もより学生の経験の機会をつくり、より生活づくりに強い関心をもったデザイナーの輩出に努めたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業は地域社会との関連のなかで行う授業である。「野に出て生活を学ぶ」という特徴を最大限に生かし、よりよいデザイナーの育成に寄与するため、地域社会の生活者らを巻き込みながら、また、彼らの協力を得ながらはじめて達成される授業である。それゆえに、教員の準備もたいへんなものがあるが、よりよきデザイン教育のための取り組みとして継続して実施していきたいと考える。

3. その他のコメントや連絡事項

今年の履修生たちは徹底的な議論・理解の共有・発表に優れていたように思われる。その可能性を引き出すきっかけのひとつになり得たものと自負している。野に出なければ生活は学べない。野に出て「生活」を体得する特徴ある授業として、今後も継続していきたい。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: 材料計画演習
担当教員	: 寺内 文雄
年次・開講時限	: 4 年前期木曜 4 限後半 / 4 年前期木曜 5 限
授業コード	: T1P048001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 21 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 11 件)

回答者中の 8 割以上が、満足していると回答し、その平均値は 4.55 と高いものであった。7 セメスタの授業科目であるため、受講者数が比較的少ないことも満足度が高くなった原因と考えられる。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていきましたか? (回答 10 件)

この項目の平均値は 4.6 で、TA が十分に活躍してくれたことがわかる。

TA は 1 名であったが、その活躍のおかげで十分な評価が得られたものと考えている。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業におけるサンプルやたとえ話、レポートなどが理解を促進させる助けとなっていることや、授業の進捗が適切であったことが確認できた。

3. その他のコメントや連絡事項

提案してもらったいろいろなアイディアは、いずれも興味深い内容を含んでいました。次年度以降も期待しています。

作成(者): 寺内文雄